

# 救急の現況

令和6年

岐阜市消防本部

当消防本部は、平成 30 年 4 月 1 日から 4 市 1 町において消防広域化の運用を開始しました。

この現況の平成 30 年のデータについては、広域化前の各消防本部の数値を含みます。また、平成 29 年以前のデータについては、広域化前の岐阜市消防本部の数値となります。

～平成 29 年度までの管轄地域～

岐阜市消防本部 岐阜市・瑞穂市

山県市消防本部 山県市

本巣消防事務組合消防本部 本巣市・北方町

～平成 30 年度から～

岐阜市消防本部 岐阜市・瑞穂市・山県市・本巣市・北方町

～令和 6 年 4 月 1 日から～

本部（デイトム）救急隊運用開始

～令和 6 年 10 月 1 日から～

救急安心センターぎふ#7119 の運用を岐阜県に引継ぎ

# 救急の概況（令和6年）

## □救急出場件数 29,112 件、搬送人員 27,099 人

令和6年の救急出場件数は29,112件、搬送人員は27,099人であった。

1日平均の出場件数は、79.5件で18分に1件の割合で救急車が出場し、当消防本部管内の住民20人に1人が救急車を利用したことになる。

事故種別ごとの救急出場件数は、急病18,696件、一般負傷5,036件、交通事故2,095件の順となっており、特に急病は全出場件数の64.2%を占めている。

## □心肺停止傷病者への救命処置について

救急隊員が救命処置をした心肺停止傷病者602人のうち、脈拍と呼吸が回復し1ヵ月生存した傷病者は33人、そのうち社会復帰した傷病者は20人となっている。

主な救命処置として、除細動を40人、気管内チューブによる気道確保（ビデオ硬性挿管用喉頭鏡を用いた気管挿管含む）は、14人に実施した。

また、薬剤投与（アドレナリン投与）は89人に実施した。

## □救急救命士の養成について

救急救命士は、採用時救急救命士資格保持者を2人に加え、新たに6人を養成した。

また、気管内チューブによる気道確保可能な救急救命士は5人、ビデオ硬性挿管用喉頭鏡を用いた気管挿管可能な救急救命士は5人、薬剤投与が可能な救急救命士については7人、血糖測定及び低血糖発作症例へのブドウ糖溶液の投与、心肺機能停止前の重度傷病者に対する静脈路確保と輸液（以下「新処置」という）が可能な救急救命士は15人を養成した。

## □救急隊員の教育・訓練の実施について

救急救命士を含む救急隊員の知識・技術の資質向上を図るために、第27回日本臨床救急医学会総会・学術集会、第27回日本救急医学会中部地方会総会・学術集会等に参加した。

また、消防本部として、テロ災害と多数傷病者対応の合同訓練を実施した。

さらに、メディカルコントロール体制の充実を図るため、4箇所の医療機関に救急隊を派遣しワークステーション方式による病院研修及び2箇所の医療機関では病院実習を実施している。

## □応急手当の普及啓発活動について

救急車が現場に到着するまでの間に、バイスタンダー（救急現場に居合わせた人）による応急手当が適切に実施されれば、大きな救命効果が得られることから住民、各種事業所及び各種団体を対象に広く救命講習を開催している。

また、現在153人の応急手当普及員を認定しており、令和6年は応急手当普及員により25回の救命講習が実施され、474人が受講した。

## □救急業務の推進について

救急活動の効率的な遂行を図るため、学識経験者、公募による住民代表者、岐阜市医師会及び医療機関の医師で構成する岐阜市救急業務対策協議会を開催した。

なお、能登半島地震発生に伴い、書面開催とした。

## □救急業務体験研修について

救急医療の重要性を認識し、救急業務の理解を深めた人材の育成を図ることを目的に、岐阜大学医学部及び岐阜市民病院と協定を締結し、医学生、研修医及び看護師を対象とした救急業務体験研修を実施している。

## □救急安心センターぎふ#7119の岐阜県への引継ぎについて

令和3年10月1日から運用を開始した救急安心センターぎふ#7119事業は、令和6年10月1日から岐阜県健康福祉部医療整備課に引き継ぎ、岐阜県内全域で運用している。この事業は、住民が急な病気やケガをしたときに、救急車を呼んだほうがいいのかなど迷った際の相談窓口として、看護師等の医療従事者から電話でアドバイスを受けることができる。

令和6年の消防本部管内における相談実績は、救急相談が8,148件、病院案内が3,414件、その他が216件の計11,778件であった。

## □本部救急隊（デイトム救急隊）の運用開始について

令和6年4月1日から増加する救急需要の対策として、平日の昼間に活動する日勤型の救急隊を中消防署に追加配備し、デイトム救急隊として運用を開始した。

救急需要が増加する平日昼間に、岐阜市中心部の中消防署を2台体制とすることで現場到着時間の短縮を図る。また、救急隊の労務負担を軽減し、活動時間の平準化を目指す。

# 目 次

## 第1 救急業務実施体制の現況

救急業務実施体制	1
----------	---

## 第2 救急業務の実施状況

1 救急出場件数及び搬送人員・救急業務の推移状況	2~4
2 救急隊別出場状況	5
3 事故種別出場件数及び搬送人員	6・7
4 年齢区分別事故種別搬送人員	8
5 月別1日平均及び曜日別出場件数	9
6 時刻別事故種別出場件数	10
7 現場到着所要時間別出場件数	11
8 傷病者の収容所要時間	12
9 診療科目別搬送人員	13
10 傷病程度別搬送人員	14・15
11 急病に係る搬送人員	16・17

## 第3 応急処置実施状況

1 救急隊の行った応急処置	18・19
2 ウツタイン様式調査	20

## 第4 医療機関への搬送状況

1 医療機関別搬送人員	21
2 搬送先医療機関管内・管外別搬送人員	21
3 転送の状況	22

第5 応急手当の普及啓発活動の状況

1 救命講習の実施状況 ----- 23

2 救命講習の受講人員の推移 ----- 24

令和6年救急業務の年表 ----- 25～28

# 第1 救急業務実施体制の現況

## 1 救急業務実施体制

令和6年12月31日現在、1本部、6消防署、15分署で、救急隊数22隊、救急隊員数214人で編成している。

また、高度救急救命体制の核となる救急救命士の資格を有する人数は165人(うち女性5人)、高規格救急車27台を運用し、計画的に救急業務の高度化を推進している。

### 第1表 救急業務実施体制

◎ 令和6年12月31日現在の救急業務実施体制	
○ 消防署数	21 署(消防署6、分署15)
○ 管内面積	833.60 km <sup>2</sup>
○ 管内人口	531,886 人
○ 救急業務実施署	1本部、21署(消防署6、分署15)
○ 救急隊数	22 隊
○ 救急隊員数	214 人
○ 救急車保有台数	27 台(うち6台は非常用救急車)

### 第2表 救急隊の配備と救急救命士等の現況

年	区分	救急隊数	救急隊員数	救急救命士数	救急救命士				救急救命士 新処置	救急救命士 修了者 (250時間)
					採用職員	気管挿管	ビデオ 喉頭鏡	薬剤投与		
平成13年		11	110	15						241
平成14年		11	110	18						255
平成15年		11	110	21						269
平成16年		11	110	24		1				274
平成17年		12	120	29	1	6				292
平成18年		13	130	34	1	9		3		270
平成19年		14	140	40	4	14		9		305
平成20年		15	150	49	5	19		18		338
平成21年		15	150	57	9	24		24		382
平成22年		15	150	64	12	29		36		399
平成23年		15	150	67	12	34	0	46		393
平成24年		15	150	67	10	38	1	53		381
平成25年		15	150	71	11	43	3	61		398
平成26年		15	150	75	12	48	6	67		392
平成27年		15	150	81	14	49	7	70	9	392
平成28年		15	150	87	14	56	9	76	20	408
平成29年		15	150	92	14	60	15	84	32	398
平成30年		21	210	137	17	88	28	121	62	486
令和元年		21	210	144	21	91	31	128	78	503
令和2年		21	210	150	24	92	37	133	86	507
令和3年		21	210	156	27	95	40	138	98	501
令和4年		21	210	161	28	98	47	147	109	494
令和5年		21	210	159	29	100	53	152	117	490
令和6年		22	214	165	33	101	57	155	130	485

採用職員とは、岐阜市消防本部採用時に救急救命士の資格を有する職員

気管挿管は平成16年7月法制化

薬剤投与は平成18年4月法制化

ビデオ硬性挿管用喉頭鏡を用いた気管挿管は平成23年8月付加

新処置(血糖測定、低血糖発作症例へのブドウ糖投与、CPA前静脈路確保と輸液)は平成26年4月法制化

## 第2 救急業務の実施状況

### 1 救急出場件数及び搬送人員・救急業務の推移状況

令和6年の救急業務実施状況は、出場件数29,112件、搬送人員27,099人で、前年に比べ出場件数257件（0.9%）、搬送人員322人（1.2%）増加した。

1日あたり平均79.5件、18分に1件の割合で救急隊が出場し、住民の20人に1人が救急隊によって搬送されたこととなる。

第3表 救急業務の実施状況

区分	年	令和6年 A	令和5年 B	対前年比	
				増減 A-B=C	増減率 C÷B
出場件数		29,112件	28,855件	257件	0.9%
医師搬送出場件数		4件	3件	1件	33.3%
資器材等搬送件数		1件	0件	1件	—
傷病者搬送件数		26,871件	26,567件	304件	1.1%
傷病者不搬送件数		2,236件	2,285件	-49件	-2.1%
傷病者搬送人員		27,099人	26,777人	322人	1.2%
内訳	男性	13,697人	13,588人	109人	0.8%
	女性	13,402人	13,189人	213人	1.6%
1日平均出場件数		79.5件	79.1件	管内人口 令和6年12月31日現在 531,886人	
救急事故発生率		18分に1件	18分に1件		
救急自動車利用率		20人に1人	20人に1人		
人口1万人当たりの出場件数		547件	540件		

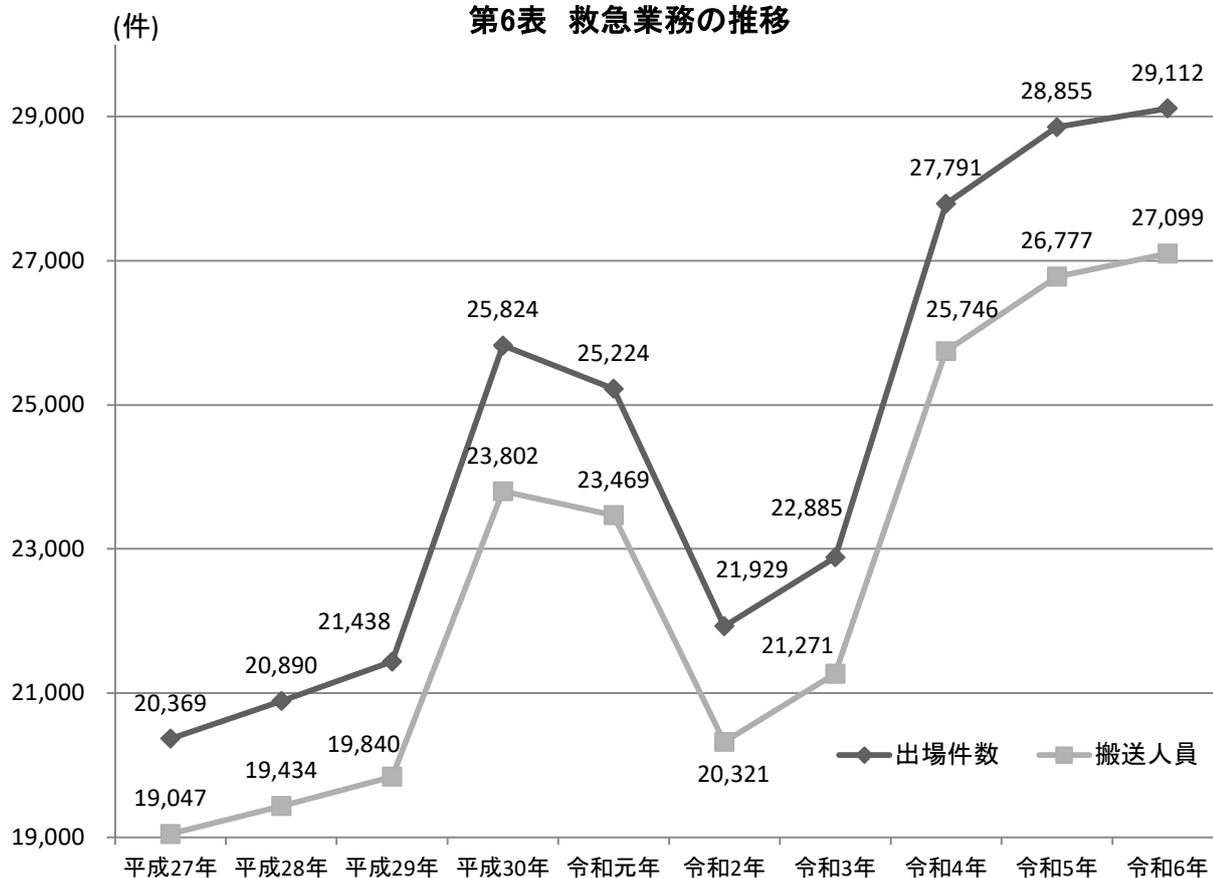
第4表 市・県・国における現況比較

	岐阜市消防本部	岐阜県 (令和5年)	全国 (令和5年)
救急車数（非常用含む）	27台	149台	6,640台
年間出場件数	29,112件	104,083件	7,638,558件
1日平均出場件数	80件	284件	20,870件
救急事故発生率	18分に1件	5.1分に1件	4.1秒に1件
人口比搬送率（救急車利用率）	20人に1人	20人に1人	19人に1人
現場到着平均所要時間	7.7分	9.0分	10.0分
病院収容平均所要時間	32.8分	37.3分	45.6分

第5表 救急業務の推移状況(過去10年)

区分 年	救急出場件数			搬送人員数			人口1万人あたりの 出場数	消防本部 管内人口
	出場 件数	対前 年比	増減率	搬送 人員	対前 年比	増減率		
平成27年	20,369	127	0.6%	19,047	28	0.1%	436	467,690
平成28年	20,890	521	2.6%	19,434	387	2.0%	447	466,919
平成29年	21,438	548	2.6%	19,840	406	2.1%	460	465,966
平成30年	25,824	4,386	20.5%	23,802	3,962	20.0%	474	544,977
令和元年	25,224	-600	-2.3%	23,469	-333	-1.4%	464	543,607
令和2年	21,929	-3,295	-13.1%	20,321	-3,148	-13.4%	405	541,318
令和3年	22,885	956	4.4%	21,271	950	4.7%	426	537,626
令和4年	27,791	4,906	21.4%	25,746	4,475	21.0%	519	535,700
令和5年	28,855	1,064	3.8%	26,777	1,031	4.0%	540	534,440
令和6年	29,112	257	0.9%	27,099	322	1.2%	547	531,886

第6表 救急業務の推移



第7表 救急活動状況(事故別行政区域別)

事故種別	行政区域	合計			岐阜市			瑞穂市			山泉市			本巣市			北方町			管轄外		
		6年	5年	増減	6年	5年	増減	6年	5年	増減	6年	5年	増減	6年	5年	増減	6年	5年	増減	6年	5年	増減
合計	出場件数	29,112	28,856	257	22,926	22,782	144	2,319	2,231	88	1,275	1,279	-4	1,727	1,677	50	866	872	-16	9	14	-5
	搬送件数	26,871	26,567	304	21,071	20,932	139	2,168	2,074	94	1,207	1,187	20	1,611	1,546	65	808	819	-11	6	9	-3
	搬送人員	27,099	26,777	322	21,248	21,070	178	2,186	2,103	83	1,211	1,198	13	1,626	1,574	52	820	823	-3	8	9	-1
火災	出場件数	135	95	40	98	70	28	13	7	6	13	7	6	9	9	0	2	2	0	0	0	0
	搬送件数	22	24	-2	13	21	-8	3	1	2	3	1	2	3	1	2	0	0	0	0	0	0
	搬送人員	26	27	-1	16	24	-8	3	1	2	4	1	3	3	1	2	0	0	0	0	0	0
自然災害	出場件数	2	2	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0
	搬送件数	2	1	1	1	0	1	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0
	搬送人員	2	1	1	1	0	1	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0
水難事故	出場件数	38	29	9	26	20	6	1	2	-1	4	2	2	5	4	1	0	0	0	2	1	1
	搬送件数	11	11	0	5	7	-2	1	1	0	3	1	2	2	2	0	0	0	0	0	0	0
	搬送人員	13	12	1	5	8	-3	1	1	0	5	1	4	2	2	0	0	0	0	0	0	0
交通事故	出場件数	2,095	2,124	-29	1,597	1,583	14	187	216	-29	57	81	-24	164	168	-4	87	69	18	3	7	-4
	搬送件数	1,945	1,925	20	1,483	1,437	46	175	195	-20	51	70	-19	153	153	0	81	65	16	2	5	-3
	搬送人員	2,118	2,090	28	1,612	1,543	69	191	215	-24	52	79	-27	168	180	-12	91	68	23	4	5	-1
労働災害	出場件数	277	302	-25	198	197	1	21	21	0	27	37	-10	24	31	-7	7	15	-8	0	1	-1
	搬送件数	275	292	-17	196	189	7	21	21	0	27	37	-10	24	29	-5	7	15	-8	0	1	-1
	搬送人員	275	292	-17	196	189	7	21	21	0	27	38	-11	24	28	-4	7	15	-8	0	1	-1
運動競技	出場件数	269	230	39	213	192	21	20	14	6	15	6	9	13	13	0	8	5	3	0	0	0
	搬送件数	265	226	39	209	189	20	20	13	7	15	6	9	13	13	0	8	5	3	0	0	0
	搬送人員	269	228	41	213	191	22	20	13	7	15	6	9	13	13	0	8	5	3	0	0	0
一般負傷	出場件数	5,036	4,862	174	3,944	3,841	103	380	349	31	237	240	-3	333	280	53	141	151	-10	1	1	0
	搬送件数	4,796	4,586	210	3,749	3,618	131	365	337	28	234	228	6	312	260	52	135	143	-8	1	0	1
	搬送人員	4,809	4,601	208	3,760	3,626	134	367	341	26	234	229	5	312	261	51	135	144	-9	1	0	1
加害	出場件数	94	77	17	84	63	21	4	4	0	0	2	-2	5	5	0	1	3	-2	0	0	0
	搬送件数	73	59	14	66	48	18	4	4	0	0	2	-2	3	3	0	0	2	-2	0	0	0
	搬送人員	73	60	13	66	49	17	4	4	0	0	2	-2	3	3	0	0	2	-2	0	0	0
自損行為	出場件数	239	233	6	195	180	15	19	19	0	7	9	-2	13	15	-2	5	10	-5	0	0	0
	搬送件数	179	162	17	148	123	25	13	14	-1	5	8	-3	9	8	1	4	9	-5	0	0	0
	搬送人員	179	162	17	148	123	25	13	14	-1	5	8	-3	9	8	1	4	9	-5	0	0	0
急病	出場件数	18,696	18,513	183	14,612	14,552	60	1,587	1,497	90	820	805	15	1,115	1,095	20	559	561	-2	3	3	0
	搬送件数	17,353	17,242	111	13,462	13,493	-31	1,504	1,412	92	789	760	29	1,061	1,039	22	534	535	-1	3	3	0
	搬送人員	17,385	17,264	121	13,492	13,510	-18	1,504	1,417	87	789	759	30	1,061	1,040	21	536	535	1	3	3	0
転院搬送	出場件数	1,959	2,053	-94	1,748	1,819	-71	62	78	-16	80	74	6	30	37	-7	39	45	-6	0	0	0
	搬送件数	1,950	2,039	-89	1,739	1,807	-68	62	76	-14	80	74	6	30	37	-7	39	45	-6	0	0	0
	搬送人員	1,950	2,040	-90	1,739	1,807	-68	62	76	-14	80	75	5	30	37	-7	39	45	-6	0	0	0
その他	出場件数	272	335	-63	210	264	-54	25	24	1	15	16	-1	15	19	-4	7	11	-4	0	1	-1
	搬送件数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	搬送人員	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

## 2 救急隊別出場状況

最も多く出場しているのは中救急隊の2,630件（構成比9.0）で1日平均7.2件、最も少ないのは根尾救急隊の120件（構成比0.4%）で1日平均0.3件となっている。

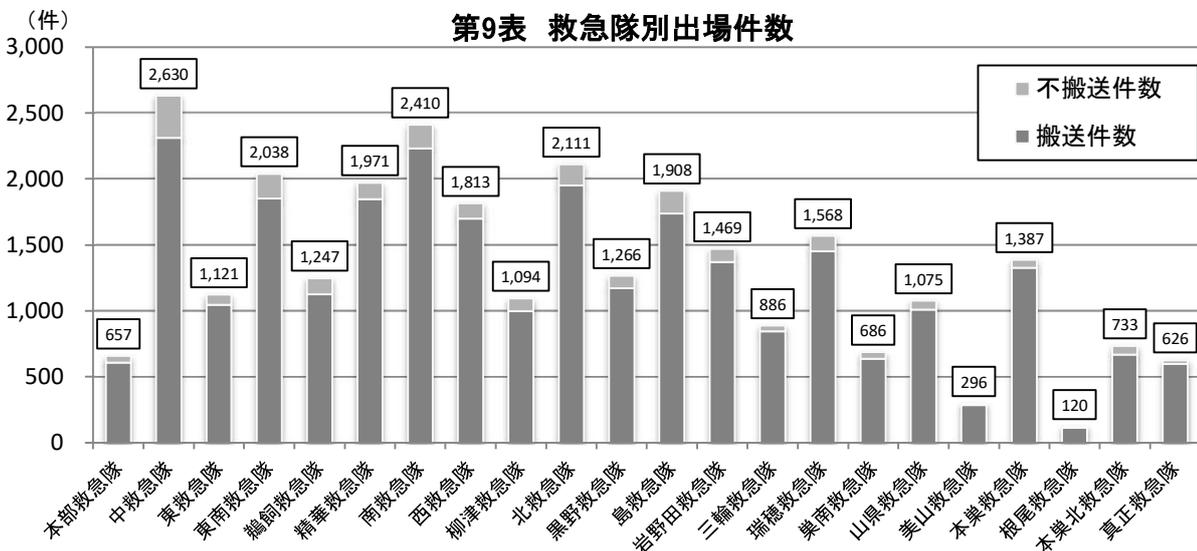
なお、救急救命士の搭乗は、29,112件で100%搭乗している。

第8表 救急隊別出場状況

出隊	区分	出場件数	構成比	前年 出場件数	増 減	1ヶ月 平均	1日平均	搬送人員	不搬送 件数
本部救急隊		657 (0)	2.3%	0	657	54.8	1.8	608	51
中消防署	中救急隊	2,630 (0)	9.0%	2,914	-284	219.2	7.2	2,324	318
	東救急隊	1,121 (0)	3.9%	1,103	18	93.4	3.1	1,056	75
	東南救急隊	2,038 (0)	7.0%	2,106	-68	169.8	5.6	1,862	186
	鶉飼救急隊	1,247 (0)	4.3%	1,307	-60	103.9	3.4	1,138	123
	精華救急隊	1,971 (0)	6.8%	2,011	-40	164.3	5.4	1,860	125
南消防署	南救急隊	2,410 (0)	8.3%	2,420	-10	200.8	6.6	2,255	177
	西救急隊	1,813 (0)	6.2%	1,750	63	151.1	5.0	1,717	114
	柳津救急隊	1,094 (0)	3.8%	1,116	-22	91.2	3.0	1,008	96
北消防署	北救急隊	2,111 (0)	7.3%	2,219	-108	175.9	5.8	1,962	162
	黒野救急隊	1,266 (0)	4.3%	1,237	29	105.5	3.5	1,178	97
	島救急隊	1,908 (0)	6.6%	1,826	82	159.0	5.2	1,759	169
	岩野田救急隊	1,469 (0)	5.0%	1,460	9	122.4	4.0	1,378	98
	三輪救急隊	886 (0)	3.0%	876	10	73.8	2.4	847	43
瑞穂	瑞穂救急隊	1,568 (0)	5.4%	1,581	-13	130.7	4.3	1,468	115
	巢南救急隊	686 (0)	2.4%	620	66	57.2	1.9	641	49
山県	山県救急隊	1,075 (0)	3.7%	1,069	6	89.6	2.9	1,011	65
	美山救急隊	296 (0)	1.0%	300	-4	24.7	0.8	287	11
本巣署	本巣救急隊	1,387 (0)	4.8%	1,430	-43	115.6	3.8	1,345	60
	根尾救急隊	120 (0)	0.4%	118	2	10.0	0.3	113	7
	本巣北救急隊	733 (0)	2.5%	764	-31	61.1	2.0	682	66
	真正救急隊	626 (0)	2.2%	628	-2	52.2	1.7	600	29
全体		29,112 (0)	100.0%	28,855	257	2,426.0	79.5	27,099	2,236

注) 構成比合計は、端数整理の関係で100%とならない場合がある。

出場件数の（ ）内は、救急救命士非搭乗件数



### 3 事故種別出場件数及び搬送人員

出場件数及び搬送人員を事故種別で見ると、急病、一般負傷、交通事故の順となっている。急病、一般負傷、交通事故の救急出場件数は全体の88.7%を占めている。

第10表 事故種別出場件数及び搬送人員

事故種別	年	令和6年		令和5年		対前年比	
		出場件数 搬送人員	構成比	出場件数 搬送人員	構成比	増減数	増減率
急病		18,696	64.2%	18,513	64.2%	183	1.0%
		17,385	64.2%	17,264	64.5%	121	0.7%
交通事故		2,095	7.2%	2,124	7.4%	-29	-1.4%
		2,118	7.8%	2,090	7.8%	28	1.3%
一般負傷		5,036	17.3%	4,862	16.8%	174	3.6%
		4,809	17.7%	4,601	17.2%	208	4.5%
加害		94	0.3%	77	0.3%	17	22.1%
		73	0.3%	60	0.2%	13	21.7%
労働災害		277	1.0%	302	1.0%	-25	-8.3%
		275	1.0%	292	1.1%	-17	-5.8%
自損行為		239	0.8%	233	0.8%	6	2.6%
		179	0.7%	162	0.6%	17	10.5%
運動競技		269	0.9%	230	0.8%	39	17.0%
		269	1.0%	228	0.9%	41	18.0%
火災		135	0.5%	95	0.3%	40	42.1%
		26	0.1%	27	0.1%	-1	-3.7%
水難		38	0.1%	29	0.1%	9	31.0%
		13	0.0%	12	0.0%	1	8.3%
自然災害		2	0.0%	2	0.0%	0	0.0%
		2	0.0%	1	0.0%	1	100.0%
その他	転院搬送	1,959	6.7%	2,053	7.1%	-94	-4.6%
		1,950	7.2%	2,040	7.6%	-90	-4.4%
	その他	272	0.9%	335	1.2%	-63	-18.8%
		0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
計		29,112	100.0%	28,855	100.0%	257	0.9%
		27,099	100.0%	26,777	100.0%	322	1.2%

注) 構成比合計は、端数整理の関係で100%とならない場合がある。

### 第11表 事故種別搬送人員の推移

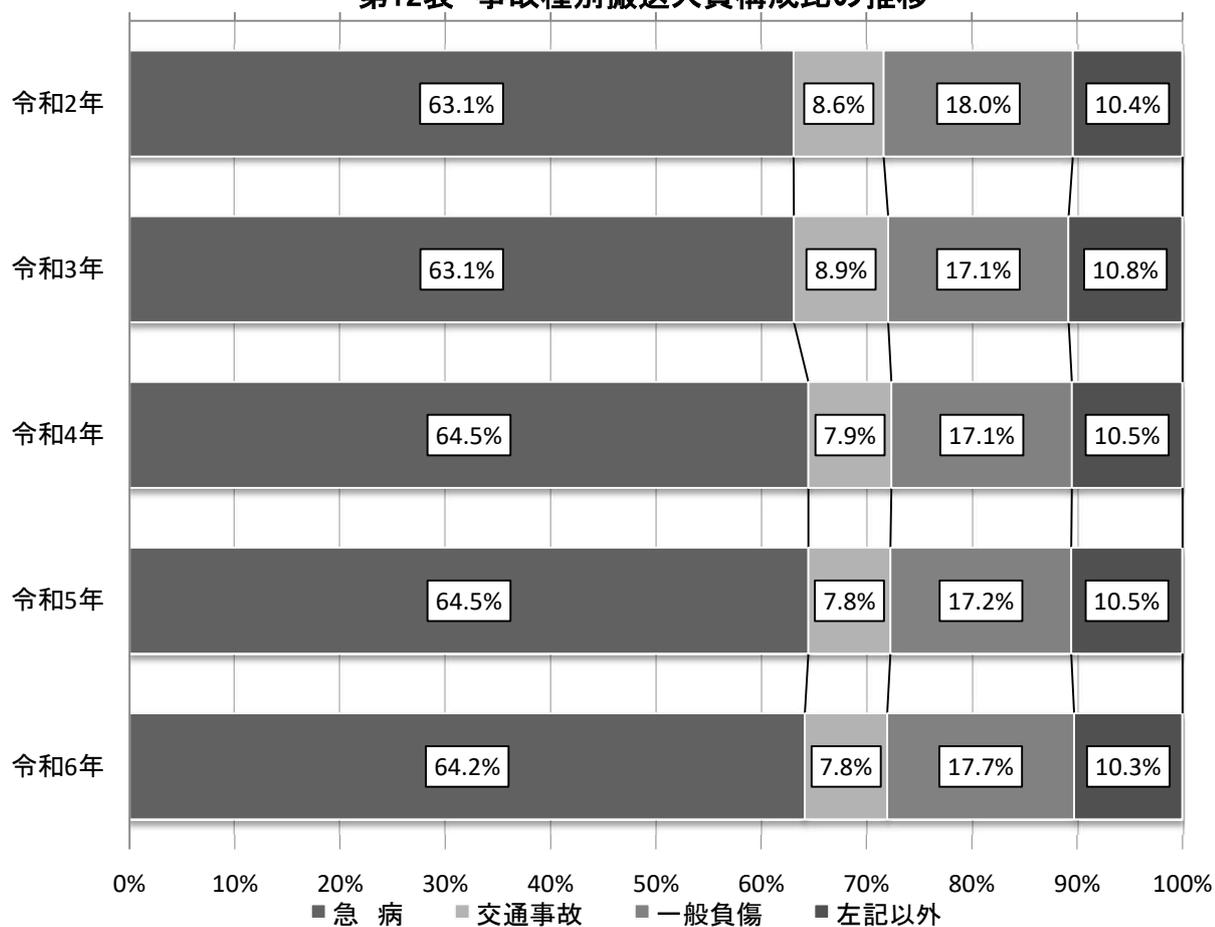
事故種別搬送人員の構成比は、急病の占める割合は減少し、一般負傷は増加している。

年	急病	交通事故	一般負傷	左記以外	合計
令和2年	12,817 (63.1)	1,739 (8.6)	3,654 (18.0)	2,111 (10.4)	20,321 (100.0)
令和3年	13,423 (63.1)	1,903 (8.9)	3,643 (17.1)	2,302 (10.8)	21,271 (100.0)
令和4年	16,602 (64.5)	2,030 (7.9)	4,413 (17.1)	2,701 (10.5)	25,746 (100.0)
令和5年	17,264 (64.5)	2,090 (7.8)	4,601 (17.2)	2,822 (10.5)	26,777 (100.0)
令和6年	17,385 (64.2)	2,118 (7.8)	4,809 (17.7)	2,787 (10.3)	27,099 (100.0)

注) ( )内は、年別構成比を示し、単位は%である。

注) 構成比合計は、端数整理の関係で100%とならない場合がある。

### 第12表 事故種別搬送人員構成比の推移



#### 4 年齢区分別事故種別搬送人員

全搬送人員に対する年齢区分別の搬送人員をみると、高齢者17,173人、成人7,801人の両方で全体の92.2%を占めている。年齢区分別事故種別の構成比は、急病は高齢者65.7%、交通事故は成人が57.1%を占めている。

第13表 年齢区分別事故種別搬送人員

年齢区分	事故種別				計
	急病	交通事故	一般負傷	左記以外	
新生児	8 (0.0)	0 (0.0)	1 (0.0)	3 (0.1)	12 (0.0)
乳幼児	745 (4.3)	55 (2.6)	260 (5.4)	20 (0.7)	1,080 (4.0)
少年	444 (2.6)	236 (11.1)	165 (3.4)	188 (6.7)	1,033 (3.8)
成人	4,769 (27.4)	1,210 (57.1)	775 (16.1)	1,047 (37.6)	7,801 (28.8)
高齢者	11,419 (65.7)	617 (29.1)	3,608 (75.0)	1,529 (54.9)	17,173 (63.4)
65歳から74歳	2,212 (12.7)	237 (11.2)	579 (12.0)	363 (13.0)	3,391 (12.5)
75歳から84歳	4,685 (26.9)	279 (13.2)	1,440 (29.9)	590 (21.2)	6,994 (25.8)
85歳以上	4,522 (26.0)	101 (4.8)	1,589 (33.0)	576 (20.7)	6,788 (25.0)
計	17,385 (100.0)	2,118 (100.0)	4,809 (100.0)	2,787 (100.0)	27,099 (100.0)

注) ( ) 内は構成比を示し、単位は%である。

注) 構成比合計は、端数整理の関係で100%とならない場合がある。

・年齢区分の定義（以下同じ）

新生児：生後28日未満の者

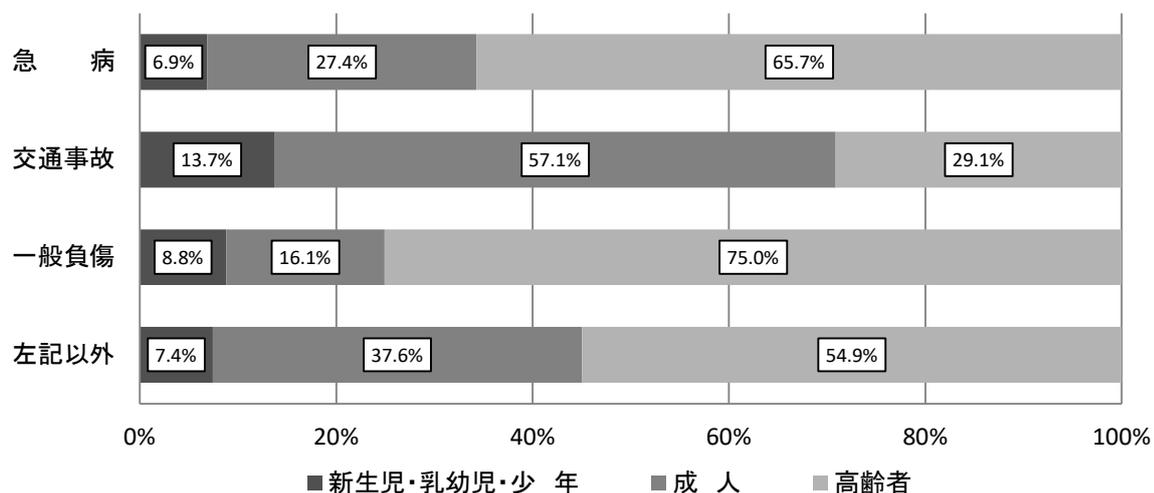
成人：満18歳以上満65歳未満の者

乳幼児：生後28日以上満7歳未満の者

高齢者：満65歳以上の者

少年：満7歳以上満18歳未満の者

第14表 年齢区分別搬送人員割合



## 5 月別1日平均及び曜日別出場件数

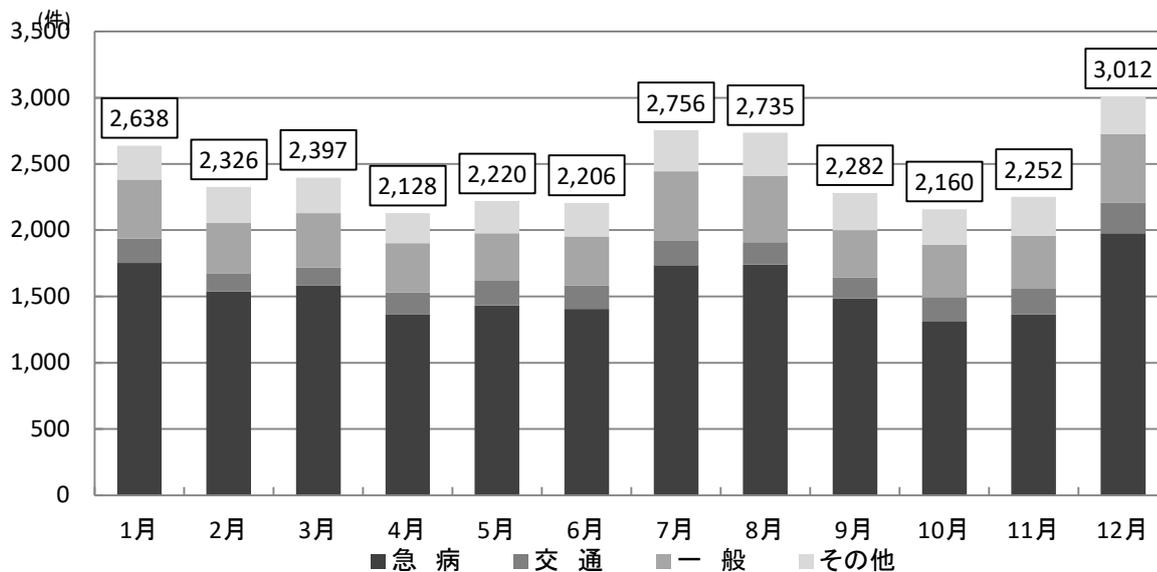
月別1日平均救急出場件数は、12月の97.2件が最も多く、10月が69.7件と最も少ない。

曜日別の救急出場件数をみると、1日平均救急出場件数は月曜日の85件が最も多く日曜日の76件が最も少ない。

### 第15表 月別1日平均出場件数

月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
急病	1,753	1,537	1,586	1,363	1,432	1,405	1,736	1,741	1,485	1,314	1,366	1,978	18,696
交通	185	134	135	169	187	180	182	167	159	179	190	228	2,095
一般	442	384	408	370	359	368	527	505	354	398	402	519	5,036
上記以外	258	271	268	226	242	253	311	322	284	269	294	287	3,285
計	2,638	2,326	2,397	2,128	2,220	2,206	2,756	2,735	2,282	2,160	2,252	3,012	29,112
1日平均	85.1	80.2	77.3	70.9	71.6	73.5	88.9	88.2	76.1	69.7	75.1	97.2	79.5

### 第16表 月別出場件数



### 第17表 曜日別出場件数

種別	急病	交通事故	一般負傷	左記以外	計	一日平均 出場件数
月	2,854	297	794	534	4,479	84.5
曜	2,664	308	716	447	4,135	78.0
日	2,658	303	655	478	4,094	78.7
別	2,626	301	704	476	4,107	79.0
	2,618	356	674	554	4,202	80.8
	2,612	277	782	453	4,124	79.3
	2,664	253	711	343	3,971	76.4
計	18,696	2,095	5,036	3,285	29,112	79.5

## 6 時刻別事故種別出場件数

救急出場件数を入電時刻別で見ると、10時台の2,065件が最も多く、3時台が475件と最も少ない。

第18表 時刻別事故種別出場件数

時刻 \ 種別	急病	交通事故	一般負傷	左記以外	計
0時	482	17	90	43	632
1時	426	15	65	41	547
2時	417	16	74	37	544
3時	360	9	71	35	475
4時	385	10	57	30	482
5時	451	26	71	33	581
6時	581	40	147	34	802
7時	770	113	175	47	1,105
8時	938	177	286	80	1,481
9時	1,181	120	342	233	1,876
10時	1,236	153	352	324	2,065
11時	1,041	139	341	342	1,863
12時	991	119	299	353	1,762
13時	991	115	323	257	1,686
14時	922	120	278	201	1,521
15時	892	136	294	193	1,515
16時	882	137	290	211	1,520
17時	912	174	306	198	1,590
18時	963	154	247	164	1,528
19時	910	115	238	137	1,400
20時	912	71	222	92	1,297
21時	800	50	198	71	1,119
22時	692	46	160	71	969
23時	561	23	110	58	752
計	18,696	2,095	5,036	3,285	29,112

注) 入電時刻とは通信回線等が消防機関に接続した時刻をいう。

## 7 現場到着所要時間別出場件数

入電から救急車が現場に到着するまでの所要時間別の出場状況は、10分未満が24,790件で全体の85.2%を占め、平均7.7分で救急車が現場に到着している。

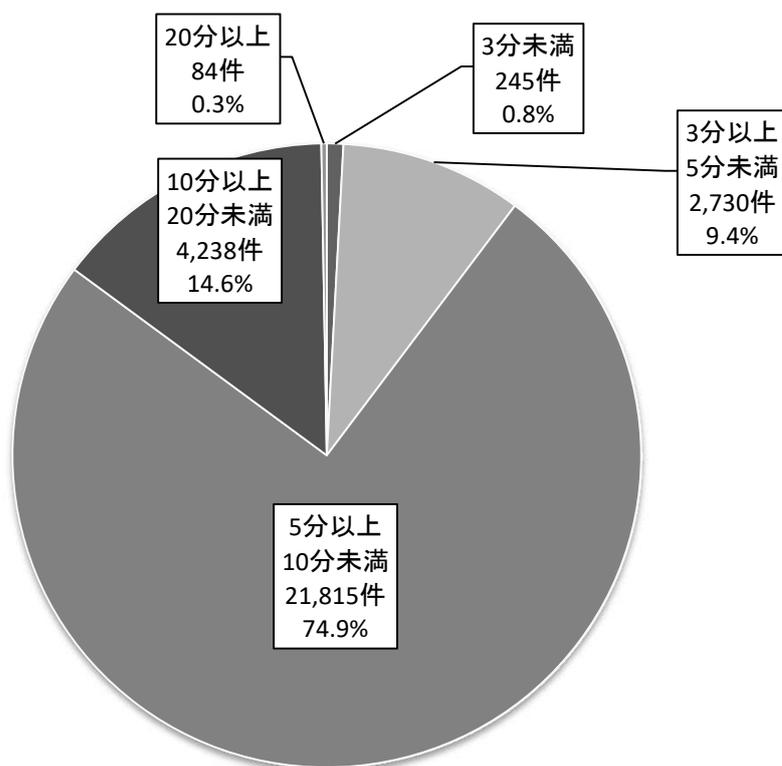
第19表 現場到着所要時間別出場件数

所要時間 事故種別	所要時間					計	平均 (分)
	3分未満	3分以上 5分未満	5分以上 10分未満	10分以上 20分未満	20分以上		
急病	144	1,619	14,253	2,646	34	18,696	7.7
	(0.8)	(8.7)	(76.2)	(14.2)	(0.2)	(100.0)	
交通事故	26	145	1,492	422	10	2,095	8.2
	(1.2)	(6.9)	(71.2)	(20.1)	(0.5)	(100.0)	
一般負傷	29	476	3,836	681	14	5,036	7.7
	(0.6)	(9.5)	(76.2)	(13.5)	(0.3)	(100.0)	
上記以外	46	490	2,234	489	26	3,285	7.5
	(1.4)	(14.9)	(68.0)	(14.9)	(0.8)	(100.0)	
計	245	2,730	21,815	4,238	84	29,112	7.7
	(0.8)	(9.4)	(74.9)	(14.6)	(0.3)	(100.0)	

注) ( ) 内は構成比を示し、単位は%である。

注) 構成比合計は、端数整理の関係で100%とならない場合がある。

第20表 現場到着所要時間と出場件数



## 8 傷病者の收容所要時間

傷病者を入電から收容先医療機関の医師に引き継ぐまでに要した時間は、最も多いのが30分以上60分未満の15,485人で全体の57.1%を占め、平均32.8分で医療機関に收容している。

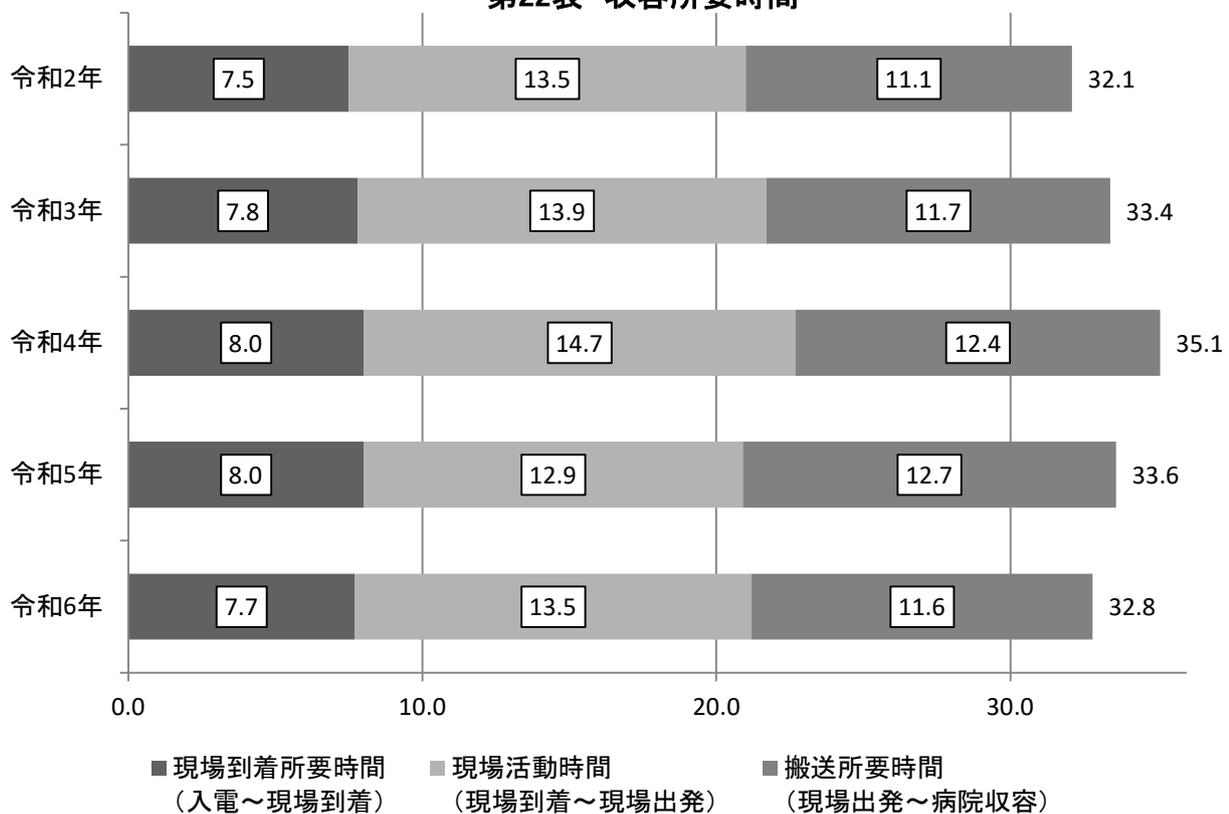
第21表 收容所要時間別事故種別搬送人員

事故種別	所要時間						計	平均(分)
	10分未満	10分以上 20分未満	20分以上 30分未満	30分以上 60分未満	60分以上 120分未満	120分以上		
急病	0 (0.0)	454 (2.6)	6,342 (36.5)	10,287 (59.2)	291 (1.7)	11 (0.1)	17,385 (100.0)	33.2
交通事故	0 (0.0)	58 (2.7)	763 (36.0)	1,270 (60.0)	27 (1.3)	0 (0.0)	2,118 (100.0)	33.0
一般負傷	0 (0.0)	135 (2.8)	1,813 (37.7)	2,766 (57.5)	90 (1.9)	5 (0.1)	4,809 (100.0)	33.0
上記以外	0 (0.0)	204 (7.3)	1,367 (49.0)	1,162 (41.7)	51 (1.8)	3 (0.1)	2,787 (100.0)	30.2
計	0 (0.0)	851 (3.1)	10,285 (38.0)	15,485 (57.1)	459 (1.7)	19 (0.1)	27,099 (100.0)	32.8

注) ( ) 内は構成比を示し、単位は%である。

注) 構成比合計は、端数整理の関係で100%とならない場合がある。

第22表 收容所要時間



## 9 診療科目別搬送人員

令和6年は内科、外科、整形外科の順となっている。  
内科、外科、整形外科の救急出場件数で全体の74.8%を占めている。

第23表 診療科目/搬送人員別の推移

診療科目 \ 年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年
合 計	20,321 (100.0)	21,271 (100.0)	25,746 (100.0)	26,777 (100.0)	27,099 (100.0)
外 科	3,693 (18.2)	4,076 (19.2)	4,631 (18.0)	4,785 (17.9)	5,258 (19.4)
内 科	8,938 (44.0)	9,237 (43.4)	11,958 (46.4)	12,076 (45.1)	12,442 (45.9)
脳神経外科	1,539 (7.6)	1,482 (7.0)	1,604 (6.2)	1,683 (6.3)	1,543 (5.7)
小児科	614 (3.0)	687 (3.2)	1,079 (4.2)	1,403 (5.2)	1,233 (4.5)
産婦人科	192 (0.9)	258 (1.2)	233 (0.9)	252 (0.9)	234 (0.9)
耳鼻咽喉科	315 (1.6)	327 (1.5)	316 (1.2)	391 (1.5)	402 (1.5)
整形外科	2,445 (12.0)	2,329 (10.9)	2,680 (10.4)	2,754 (10.3)	2,562 (9.5)
泌尿器科	267 (1.3)	285 (1.3)	306 (1.2)	297 (1.1)	315 (1.2)
精神科	122 (0.6)	139 (0.7)	171 (0.7)	159 (0.6)	147 (0.5)
眼 科	22 (0.1)	29 (0.1)	31 (0.1)	41 (0.2)	33 (0.1)
循環器科	1,009 (5.)	1,101 (5.2)	1,296 (5.0)	1,464 (5.5)	1,469 (5.4)
呼吸器科	403 (2.)	519 (2.4)	601 (2.3)	551 (2.1)	522 (1.9)
上記以外	762 (3.7)	802 (3.8)	840 (3.3)	921 (3.4)	939 (3.5)

注) ( ) 内は構成比を示し、単位は%である。

注) 構成比合計は、端数整理の関係で100%とならない場合がある。

## 10 傷病程度別搬送人員

傷病程度別・事故種別及び年齢区分別・傷病程度別搬送人員の状況を表している。

### 第24表 傷病程度別・事故種別搬送人員

種別 \ 程度	死 亡	重 症	中等症	軽 症	その他	計
急 病	92 (0.5)	1,681 (9.7)	9,364 (53.9)	6,248 (35.9)	0 (0.0)	17,385 (100.0)
交通事故	1 (0.0)	70 (3.3)	587 (27.7)	1,460 (68.9)	0 (0.0)	2,118 (100.0)
一般負傷	14 (0.3)	279 (5.8)	2,133 (44.4)	2,383 (49.6)	0 (0.0)	4,809 (100.0)
上記以外	6 (0.2)	521 (18.7)	1,700 (61.0)	560 (20.1)	0 (0.0)	2,787 (100.0)
計	113 (0.4)	2,551 (9.4)	13,784 (50.9)	10,651 (39.3)	0 (0.0)	27,099 (100.0)

注) ( ) 内は構成比を示し、単位は%である。

注) 構成比合計は、端数整理の関係で100%とならない場合がある。

#### ・傷病程度の定義

死 亡 : 初診時において死亡が確認されたもの

重 症 (長期入院) : 傷病の程度が3週間以上の入院加療を必要とするもの

中等症 (入院診療) : 傷病の程度が入院を必要とするもので重症に至らないもの

軽 症 (外来診療) : 傷病の程度が入院を必要としないもの

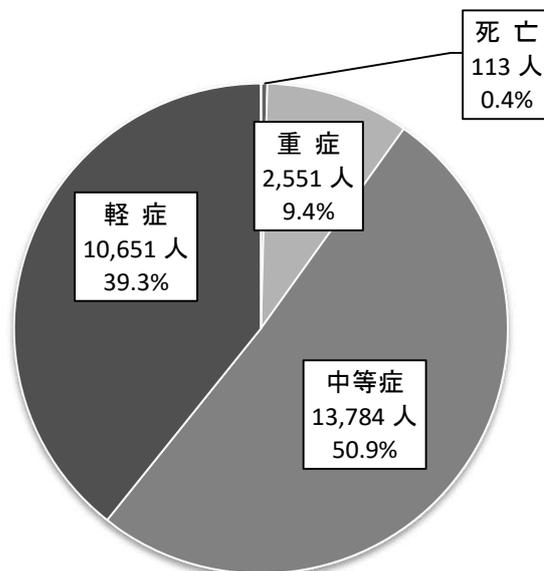
その他 : 医師の診断がないもの及び搬送先がその他の場所へ搬送したもの

※傷病程度は入院加療の必要性を基準に区別しているため、軽症の中には早期に入院して治療

が

必要だった者や通院による治療が必要だった者も含まれている

### 第25表 傷病程度別搬送人員



第26表 年齢区分別傷病程度別搬送人員

区分 \ 程度	死 亡	重 症	中等症	軽 症	その他	計
新生児	0 (0.0)	3 (25.0)	5 (41.7)	4 (33.3)	0 (0.0)	12 (100.0)
乳幼児	0 (0.0)	11 (1.0)	322 (29.8)	747 (69.2)	0 (0.0)	1,080 (100.0)
少 年	0 (0.0)	16 (1.5)	351 (34.0)	666 (64.5)	0 (0.0)	1,033 (100.0)
成 人	13 (0.2)	457 (5.9)	3,296 (42.3)	4,035 (51.7)	0 (0.0)	7,801 (100.0)
高齢者	100 (0.6)	2,064 (12.0)	9,810 (57.1)	5,199 (30.3)	0 (0.0)	17,173 (100.0)
65歳から74歳	14 (0.4)	376 (11.1)	1,784 (52.6)	1,217 (35.9)	0 (0.0)	3,391 (100.0)
75歳から84歳	32 (0.5)	780 (11.2)	3,956 (56.6)	2,227 (31.8)	0 (0.0)	6,994 (100.0)
85歳以上	54 (0.8)	908 (13.4)	4,070 (60.0)	1,755 (25.9)	0 (0.0)	6,788 (100.0)
計	113 (0.4)	2,551 (9.4)	13,784 (50.9)	10,651 (39.3)	0 (0.0)	27,099 (100.0)

注) ( ) 内は構成比を示し、単位は%である。

注) 構成比合計は、端数整理の関係で100%とならない場合がある。

第27表 事故種別軽症者の推移

事故種別 \ 年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年
軽症者数	7,747 (100.0)	8,213 (100.0)	10,478 (100.0)	10,683 (100.0)	10,651 (100.0)
急 病	4,433 (57.2)	4,710 (57.3)	6,280 (59.9)	6,248 (58.5)	6,248 (58.7)
交通事故	1,191 (15.4)	1,308 (15.9)	1,465 (14.0)	1,460 (13.7)	1,460 (13.7)
一般負傷	1,776 (22.9)	1,814 (22.1)	2,239 (21.4)	2,383 (22.3)	2,383 (22.4)
上記以外	347 (4.5)	381 (4.6)	494 (4.7)	592 (5.5)	560 (5.3)

注) ( ) 内は構成比を示し、単位は%である。

## 11 急病に係る搬送人員

急病の搬送人員は17,385人となっている。疾病分類では循環系の疾患が多く、脳疾患と心疾患等とで合わせて2,211人が搬送され、急病全体の搬送人員のうち12.7%を占めている。

傷病程度別で見ると軽症の割合は、全体で35.9%を占めている。

年齢区分別にみると高齢者の割合が高く、全体の65.7%を占めている。

第28表 急病に係る疾病分類別年齢区分別搬送人員の状況

分類項目		年齢区分					計
		新生児	乳幼児	少年	成人	高齢者	
循環系	脳疾患	0 (0.0)	2 (0.2)	5 (0.5)	169 (18.5)	736 (80.7)	912 (5.2)
	心疾患等	0 (0.0)	0 (0.0)	3 (0.2)	246 (18.9)	1,050 (80.8)	1,299 (7.5)
消化系		0 (0.0)	29 (2.4)	28 (2.3)	447 (36.4)	725 (59.0)	1,229 (7.1)
呼吸系		0 (0.0)	47 (2.7)	64 (3.7)	356 (20.4)	1,274 (73.2)	1,741 (10.0)
精神系		0 (0.0)	1 (0.2)	8 (1.6)	403 (81.1)	85 (17.1)	497 (2.9)
感覚系		0 (0.0)	20 (5.0)	53 (13.3)	172 (43.2)	153 (38.4)	398 (2.3)
泌尿系		0 (0.0)	0 (0.0)	5 (1.1)	223 (48.6)	231 (50.3)	459 (2.6)
新生物		0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	31 (17.8)	143 (82.2)	174 (1.0)
その他		3 (0.2)	17 (1.2)	14 (1.0)	356 (26.1)	973 (71.4)	1,363 (7.8)
症状・徴候・診断名 不明確の状態		5 (0.1)	629 (6.8)	264 (2.8)	2,366 (25.4)	6,049 (65.0)	9,313 (53.6)
計		8 (0.0)	745 (4.3)	444 (2.6)	4,769 (27.4)	11,419 (65.7)	17,385 (100.0)

注) 急病に係る疾病分類とは、事故種別の急病については初診時における医師の診断に基づく傷病名をWHO（世界保健機関）で定める国際疾病分類（ICD）により分類したものである。

注) 「脳疾患」とは、脳血管疾患をいう。

注) 「新生物」とは、胃の悪性新生物、白血病等その他の悪性新生物及びその他の新生物をいう。

注) 「その他」とは、上記の循環系から新生物までに分類された以外の疾病分類の全てである。

注) 「症状・徴候・診断名不明確の状態」とは、腹痛、頭痛、失神、めまい等の傷病名である。

注) ( ) 内は構成比を示し、単位は%である。

注) 構成比合計は、端数整理の関係で100%とならない場合がある。

注) 急病の搬送人員は、事故種別搬送人員から算出している。

第29表 急病に係る疾病分類別傷病程度別搬送人員の状況

傷病程度 分類項目		死 亡	重 症	中等症	軽 症	計
循環系	脳疾患	1 (1.1)	281 (16.7)	518 (5.5)	112 (1.8)	912 (5.2)
	心疾患等	6 (6.5)	253 (15.1)	740 (7.9)	300 (4.8)	1,299 (7.5)
消化系		0 (0.0)	59 (3.5)	741 (7.9)	429 (6.9)	1,229 (7.1)
呼吸系		1 (1.1)	179 (10.6)	1,082 (11.6)	479 (7.7)	1,741 (10.0)
精神系		0 (0.0)	15 (0.9)	179 (1.9)	303 (4.8)	497 (2.9)
感覚系		0 (0.0)	10 (0.6)	183 (2.0)	205 (3.3)	398 (2.3)
泌尿系		0 (0.0)	18 (1.1)	256 (2.7)	185 (3.0)	459 (2.6)
新生物		3 (3.3)	63 (3.7)	90 (1.0)	18 (0.3)	174 (1.0)
その他		0 (0.0)	73 (4.3)	761 (8.1)	529 (8.5)	1,363 (7.8)
症状・徴候・診断名 不明確の状態		81 (88.0)	730 (43.4)	4,814 (51.4)	3,688 (59.0)	9,313 (53.6)
計		92 (0.5)	1,681 (9.7)	9,364 (53.9)	6,248 (35.9)	17,385 (100.0)

注) ( ) 内は構成比を示し、単位は%である。

注) 構成比合計は、端数整理の関係で100%とならない場合がある。

第30表 急病に係る年齢区分別傷病程度別搬送人員の状況

傷病程度 年齢区分	死 亡	重 症	中等症	軽 症	計
新生児	0 (0.0)	2 (0.1)	3 (0.0)	3 (0.0)	8 (0.0)
乳幼児	0 (0.0)	8 (0.5)	236 (2.5)	501 (8.0)	745 (4.3)
少年	0 (0.0)	3 (0.2)	155 (1.7)	286 (4.6)	444 (2.6)
成人	7 (7.6)	249 (14.8)	2,128 (22.7)	2,385 (38.2)	4,769 (27.4)
高齢者	85 (92.4)	1,419 (84.4)	6,842 (73.1)	3,073 (49.2)	11,419 (65.7)
計	92 (0.5)	1,681 (9.7)	9,364 (53.9)	6,248 (35.9)	17,385 (100.0)

注) ( ) 内は構成比を示し、単位は%である。

注) 構成比合計は、端数整理の関係で100%とならない場合がある。

### 第3 応急処置実施状況

#### 1 救急隊の行った応急処置

搬送人員27,099人のうち、応急処置を実施した傷病者は27,094人である。

特定行為等（器具による気道確保、気管内チューブによる気道確保、除細動、静脈路確保、薬剤投与、血糖測定、ブドウ糖投与）の件数は1,047件となっている。

第31表 救急隊員の行った応急処置

処置項目	事故種別	急病	交通事故	一般負傷	左記以外	計
	応急処置対象人員	17,383人	2,118人	4,809人	2,784人	27,094人
止血	84 (0.1)	44 (0.5)	205 (1.1)	40 (0.4)	373 (0.3)	
被覆	55 (0.1)	295 (3.4)	934 (5.1)	135 (1.2)	1,419 (1.3)	
固定	85 (0.1)	699 (8.1)	360 (2.0)	152 (1.4)	1,296 (1.2)	
保温	241 (0.3)	41 (0.5)	58 (0.3)	48 (0.4)	388 (0.4)	
酸素吸入	3,872 (5.3)	132 (1.5)	314 (1.7)	691 (6.3)	5,009 (4.5)	
人工呼吸	14 (0.0)	0 (0.0)	2 (0.0)	6 (0.1)	22 (0.0)	
胸骨圧迫	2 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (0.0)	
心肺蘇生	498 (0.7)	11 (0.1)	47 (0.3)	41 (0.4)	597 (0.5)	
在宅療法	547 (0.8)	2 (0.0)	57 (0.3)	14 (0.1)	620 (0.6)	
血圧測定	16,498 (22.7)	2,071 (23.9)	4,625 (25.2)	2,723 (24.6)	25,917 (23.4)	
心音・呼吸音聴取	4,693 (6.5)	781 (9.0)	807 (4.4)	445 (4.0)	6,726 (6.1)	
血中酸素飽和度測定	16,918 (23.3)	2,105 (24.2)	4,759 (25.9)	2,745 (24.8)	26,527 (23.9)	
心電図測定	12,630 (17.4)	592 (6.8)	1,818 (9.9)	1,516 (13.7)	16,556 (14.9)	
気道確保	673 (0.9)	16 (0.2)	67 (0.4)	53 (0.5)	809 (0.7)	
用 手	333	7	29	31	400	
経鼻エアウェイ	2	0	0	0	2	
喉頭鏡・鉗子等	3	0	6	0	9	
ラリంగాアルマスク等	328	9	26	21	384	
気管内チューブ	7	0	6	1	14	
ビデオ喉頭鏡	2	0	4	0	6	
除細動	35 (0.0)	1 (0.0)	2 (0.0)	2 (0.0)	40 (0.0)	
静脈路確保	248 (0.3)	13 (0.1)	36 (0.2)	18 (0.2)	315 (0.3)	
心肺機能停止前	56	7	22	5	90	
心肺機能停止後	174	6	14	13	207	
ブドウ糖投与	18	0	0	0	18	
薬剤投与	74 (0.1)	5 (0.1)	7 (0.0)	3 (0.0)	89 (0.1)	
血糖測定	171 (0.2)	1 (0.0)	10 (0.1)	4 (0.0)	186 (0.2)	
ブドウ糖投与	19 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	19 (0.0)	
その他	15,376 (21.1)	1,872 (21.6)	4,272 (23.2)	2,420 (21.9)	23,940 (21.6)	
計	72,733 (100.0)	8,681 (100.0)	18,380 (100.0)	11,056 (100.0)	110,850 (100.0)	

注) ( ) 内は構成比を示し、単位は%である。

注) 構成比合計は、端数整理の関係で100%とならない場合がある。

### 第32表 救急救命処置実施数の推移

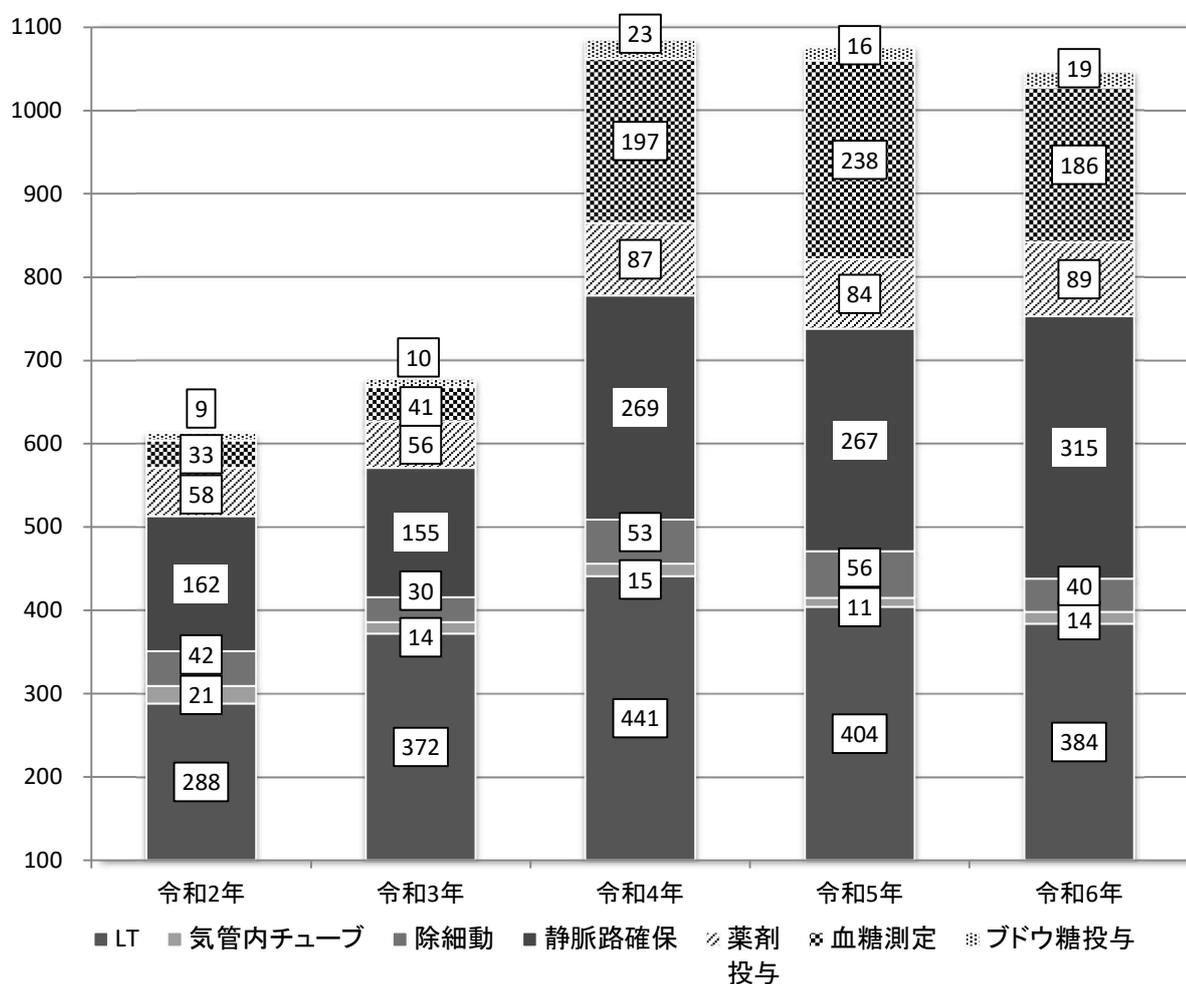
処置内容		LT	気管内チューブ	除細動	静脈路確保	薬剤投与	血糖測定	ブドウ糖投与	合計
処置実績	令和2年	288	21 (6)	42	162 (25)	58	33	9	613
	令和3年	372	14 (8)	30	155 (29)	56	41	10	678
	令和4年	441	15 (9)	53	269 (40)	87	197	23	1,085
	令和5年	404	11 (6)	56	267 (47)	84	238	16	1,076
	令和6年	384	14 (6)	40	315 (108)	89	186	19	1,047

注) 気管内チューブの ( ) 内はビデオ硬性挿管用喉頭鏡を用いた気管挿管を示す。

注) 処置内容のLTは、ラリングアルチューブを示す。

注) 静脈路確保の ( ) 内はCPA前静脈路確保を示す。

### 第33表 救急救命処置実施数の推移



- ※ 平成15年4月 除細動 (医師の具体的指示は不要)
- ※ 平成16年8月 除細動 (救急救命士以外の救急隊員も実施可能)
- ※ 平成16年7月 気管内チューブによる気道確保
- ※ 平成18年4月 薬剤投与 (アドレナリン投与)
- ※ 平成23年8月 ビデオ硬性挿管用喉頭鏡を用いた気管挿管
- ※ 平成26年4月 新処置 (血糖測定、低血糖発作症例へのブドウ糖溶液の投与、CPA前静脈路確保と輸液)

## 2 ウツタイン様式調査

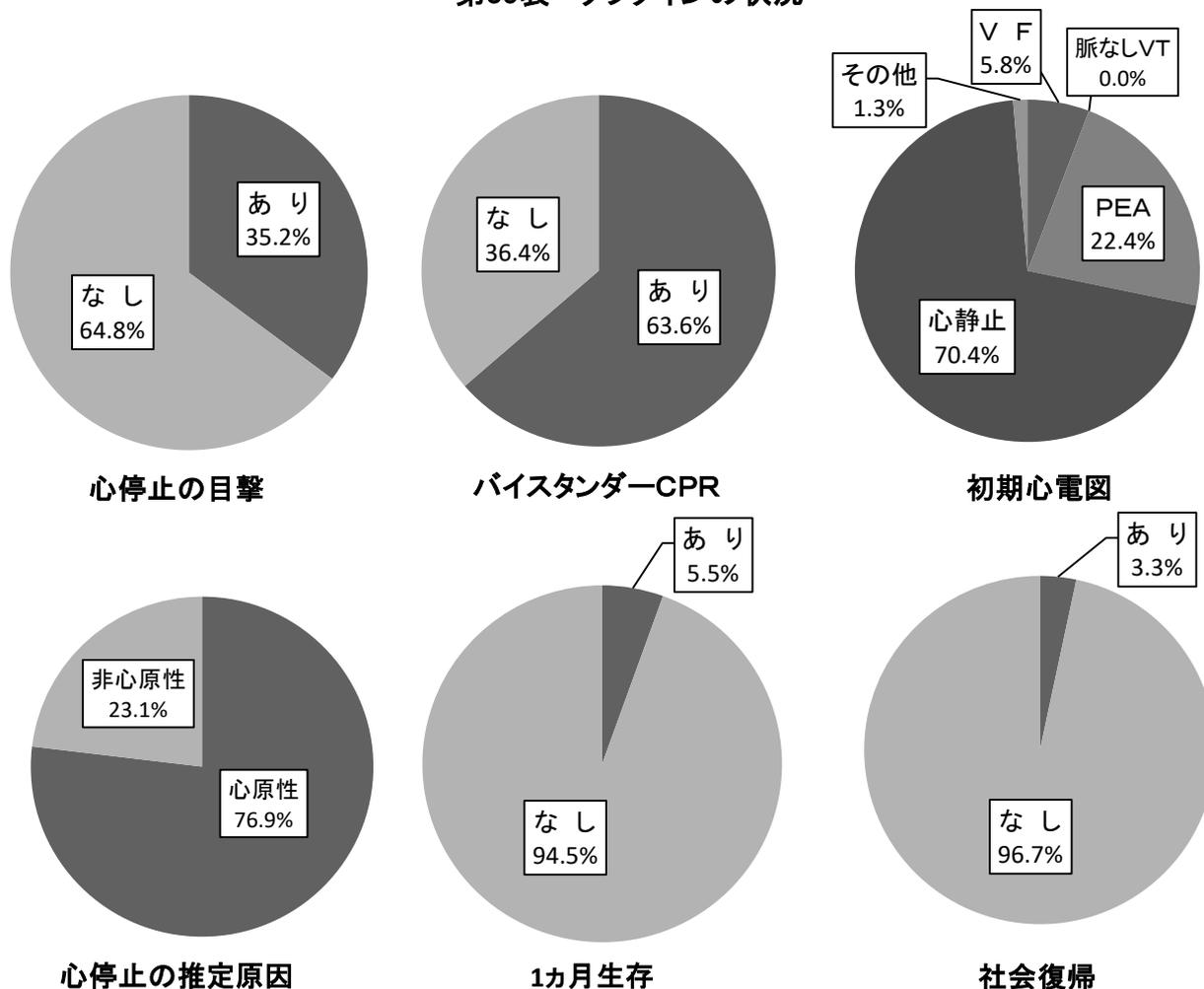
令和6年中において、救急隊が搬送したウツタイン様式調査の対象となる602人のうち、傷病者の1ヵ月生存は33人、社会復帰は20人であった。

第34表 ウツタイン様式調査

対象人数 602人

		令和6年		令和5年		対前年比	
心停止の目撃	あり	212	35.2%	240	40.5%	-28	-11.7%
	なし	390	64.8%	353	59.5%	37	10.5%
バイスタンダーCPR	あり	383	63.6%	379	63.9%	4	1.1%
	なし	219	36.4%	214	36.1%	5	2.3%
初期心電図	V F	35	5.8%	38	6.4%	-3	-7.9%
	脈なしVT	0	0.0%	1	0.2%	-1	-100.0%
	PEA	135	22.4%	161	27.2%	-26	-16.1%
	心静止	424	70.4%	383	64.6%	41	10.7%
	その他	8	1.3%	10	1.7%	-2	-20.0%
心停止の推定原因	心原性	463	76.9%	428	72.2%	35	8.2%
	非心原性	139	23.1%	165	27.8%	-26	-15.8%
1ヵ月生存	あり	33	5.5%	29	4.9%	4	13.8%
	なし	569	94.5%	564	95.1%	5	0.9%
社会復帰	あり	20	3.3%	15	2.5%	5	33.3%
	なし	582	96.7%	578	97.5%	4	0.7%

第35表 ウツタインの状況



## 第4 医療機関への搬送状況

### 1 医療機関別搬送人員

医療機関に搬送した27,099人のうち救急告示医療機関への搬送人員は26,748人（98.7%）で救急告示医療機関以外への搬送人員は、351人（1.3%）である。

第36表 医療機関別搬送人員

区分 告示別	医 療 機 関						構成比	そ の 他 の 場 所			合 計
	国 立	公 立	公 病 院	私 病 院	私 的 診 療 所	計		接 骨 院	そ の 他 の 場 所	計	
救急告示	1,477 (1)	9,843 (730)	4,674 (1,125)	10,725 (1,966)	29 (0)	26,748 (3,822)	98.7%	0 (0)	0 (0)	0 (0)	26,748 (3,822)
非告示	0 (0)	0 (0)	0 (0)	247 (42)	104 (3)	351 (45)	1.3%	0 (0)	0 (0)	0 (0)	351 (45)
計	1,477 (1)	9,843 (730)	4,674 (1,125)	10,972 (2,008)	133 (3)	27,099 (3,867)	100.0%	0 (0)	0 (0)	0 (0)	27,099 (3,867)

注) ( ) 内は管外の医療機関へ搬送された人員である。

### 2 搬送先医療機関管内・管外別搬送人員

管内の医療機関に85.7%搬送されている。

第37表 搬送先医療機関管内・管外別搬送人員

年	区分 搬送人員	搬 送 先 医 療 機 関						管 外 搬送率
		管 内		管 外				
				県 内		県 外		
令和2年	20,321	18,186	89.5%	2,119	10.4%	16	0.1%	10.5%
令和3年	21,271	18,935	89.0%	2,318	10.9%	18	0.1%	11.0%
令和4年	25,746	22,903	89.0%	2,821	11.0%	22	0.1%	11.0%
令和5年	26,777	23,915	89.3%	2,840	10.6%	22	0.1%	10.7%
令和6年	27,099	23,232	85.7%	3,848	14.2%	19	0.1%	14.3%

### 3 転送の状況

「転送」とは、何らかの理由により、初回の搬送先医療機関で収容できなかったため、さらに当該医療機関等以外の医療機関へ搬送した場合をいう。

令和6年の搬送人員27,099人について、転送回数別搬送人員の状況は、転送なく収容された傷病者は、27,081人(99.9%)であり、残りの18人(0.1%)は表39の理由により転送されている。

**第38表 転送回数別搬送人員(事故種別)**

事故種別	転送の有無 及び回数	転送なし (A)	転送回数					小計 (B)	計 (C) (A) + (B)	転送率 (B)/(C) ×100
			1回	2回	3回	4回	5回 以上			
急病		17,374	11	0	0	0	0	11	17,385	0.1%
交通事故		2,117	1	0	0	0	0	1	2,118	0.0%
一般負傷		4,804	5	0	0	0	0	5	4,809	0.1%
上記以外		2,786	1	0	0	0	0	1	2,787	0.0%
計		27,081	18	0	0	0	0	18	27,099	0.1%

**第39表 事故種別による転送理由**

転送となった18件について、初回の医療機関に収容できなかった理由は、専門外と処置困難が多く、全体の83.3%を占めている。

種別 理由	急病	交通事故	一般負傷	左記以外	計
ベッド満床	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
専門外	3 (27.3)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)	4 (22.2)
医師不在	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
手術中	2 (18.2)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (11.1)
処置困難	5 (45.5)	1 (100.0)	5 (100.0)	0 (0.0)	11 (61.1)
理由不明	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
その他	1 (9.1)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (5.6)
計	11 (100.0)	1 (100.0)	5 (100.0)	1 (100.0)	18 (100.0)

注) ( ) 内は構成比を示し、単位は%である。

## 第5 応急手当の普及啓発活動の状況

### 1 救命講習の実施状況

応急手当普及啓発活動については、救命講習等を855回実施し16,154人が受講した。  
普及啓発用資器材の保有状況については、蘇生訓練用人形が成人用84体、小児用42体、乳児用42体、AEDトレーナー84器を保有している。  
岐阜市消防本部では、住民を対象に日曜救命講習及び夜間救命講習を開催している。  
また、公立中学校と希望する私立中学校の生徒を対象に、「命の教育」として短時間救命講習を実施している。

第40表 講習別救命講習実施人員

種別 区分	上級 救命講習	普通 救命講習 Ⅰ	普通 救命講習 Ⅱ	普通 救命講習 Ⅲ	ステップアップ 講習	救命入門 コース	救命講習 以外講習	合 計
実施回数	9	149	10	37	190	230	230	855
受講者数	146	1,445	224	369	1,838	3,926	8,206	16,154

第41表 受講対象者別救命講習受講人数

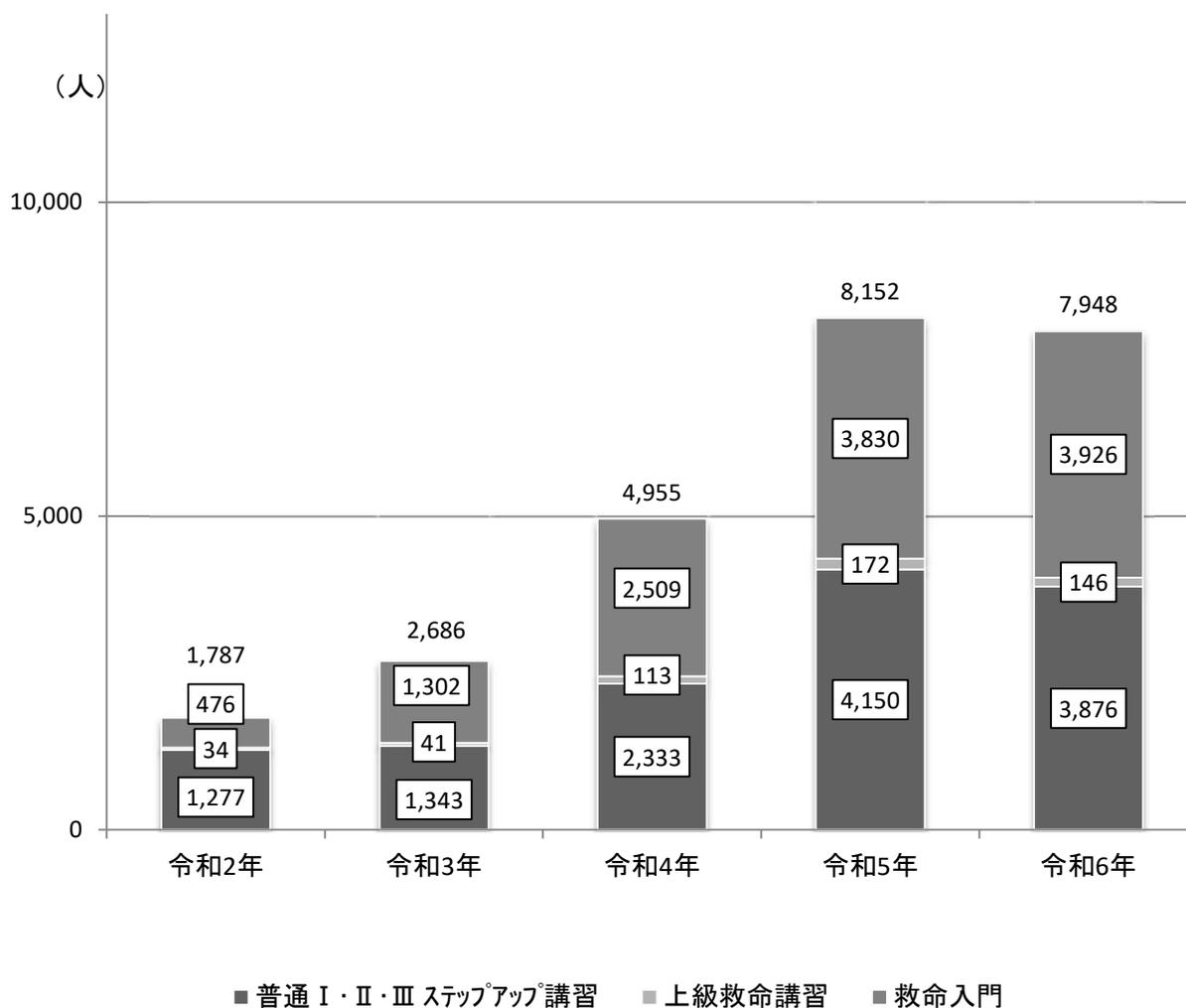
年 団体	事業所	市町職員	自治会等	女性防火	消防団	学校等	日曜救命	夜間救命	その他	合 計
平成28年	3,212	216	4,318	805	248	11,163	327	61	6,951	27,301
令和2年	529	441	72	50	65	1,970	162	16	279	3,584
令和3年	663	252	204	158	14	4,385	167	12	296	6,151
令和4年	1,775	237	479	367	164	8,608	287	37	1,031	12,985
令和5年	3,132	517	809	691	438	5,366	522	58	5,563	17,096
令和6年	3,250	608	447	534	269	4,967	607	57	5,415	16,154

## 2 救命講習の受講人員の推移

第42表 救命講習の受講人員の推移

年	種別 普通Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ ステップアップ講習 A	上級救命講習 B	小計 C=A+B	救命入門 コース D	合計 C+D
令和2年	1,277	34	1,311	476	1,787
令和3年	1,343	41	1,384	1,302	2,686
令和4年	2,333	113	2,446	2,509	4,955
令和5年	4,150	172	4,322	3,830	8,152
令和6年	3,876	146	4,022	3,926	7,948

第43表 救命講習の受講人数



## 令和 6 年救急業務の年表

	記 事
2月 1日 ～ 2月 2日	第32回全国救急隊員シンポジウム 開催場所：愛知県名古屋市 名古屋国際会議場 発表者：安江隆晃、加納大輝 座 長：青谷洋人
2月 5日 ～ 2月 8日	ビデオ喉頭鏡による気管挿管病院実習 岐阜赤十字病院：杉山清彦
2月 7日	令和5年度岐阜県MC協議会 リスク管理委員会 開催場所：岐阜大学医学部 委 員：安江隆晃、田中憲生
2月16日	令和5年度全国消防長会東海支部救急委員会 開催場所：じゅうろくプラザ 根尾惣磨、安江隆晃、田中憲生、青谷洋人
2月17日	岐阜市医師会主催・岐阜市後援 市民公開講座 開催場所：グランヴェール岐山
2月26日	岐阜県MC協議会 令和5年度第4回救急隊員教育部会（オンライン） 部 会 員：根尾惣磨
2月26日	岐阜県MC協議会 令和5年度第2回プロトコール検討部会（オンライン） 部 会 員：青谷洋人
3月 1日	岐阜県MC協議会 令和5年度第2回事後検証部会（オンライン） 部 会 員：青谷洋人
3月10日	第47回救急救命士国家試験 松山稜佑、高木章弘、手塚康太、吉田諒太郎、上松大真、服部翔太
3月11日	岐阜県MC協議会 令和5年度第2回外傷調査に係るWG（オンライン） グループ員：青谷洋人
3月13日	救急救命士による薬剤投与修了実習 岐阜大学医学部：平林毅郎、梶川琢斗
3月13日	救急救命士によるビデオ喉頭鏡修了実習 岐阜大学医学部：伊藤佑一
3月24日	岐阜県MC協議会 令和5年度第4回岐阜県MC協議会（オンライン） 委 員：根尾惣磨
4月 1日	本部（デイトム）救急隊運用開始（13時30分～）
4月 3日 ～ 9月30日	第66期救急救命東京研修所派遣 山田翔大、高橋佑騎
4月16日、17日	救急係長会議 開催場所：本巣消防署
4月28日	高橋尚子杯ぎふ清流ハーフマラソン2024
5月 8日	令和6年度岐阜県メディカルコントロール協議会 リスク管理委員会 開催場所：岐阜大学医学部 委 員：安江隆晃
5月 8日	令和6年度第1回岐阜県MC協議会（書面会議） 委 員：留田隆、根尾惣磨

	記 事
5月13日 ～ 5月16日	静脈路確保に係る病院実習 岐北厚生病院：早矢仕尚孝
5月13日 ～ 5月17日	静脈路確保に係る病院実習 岐阜市民病院：加藤浩介
5月13日 ～ 5月22日	静脈路確保に係る病院実習 岐阜県総合医療センター：鋒山伸久
5月17日	岐阜県消防長会救急課長会議 開催場所：高山市 ひだホテルプラザ
5月20日 ～ 5月24日	静脈路確保に係る病院実習 岐阜赤十字病院：三島喜一郎
5月20日 ～ 5月30日	静脈路確保に係る病院実習 朝日大学病院：太田光祐
5月27日 ～ 5月29日	静脈路確保に係る病院実習 岐阜県総合医療センター：小酒井大貴
5月27日 ～ 5月30日	静脈路確保に係る病院実習 岐北厚生病院：六坊章宏
5月27日 ～ 5月31日	静脈路確保に係る病院実習 岐阜市民病院：藤澤柊斗
6月 3日 ～ 6月 7日	静脈路確保に係る病院実習 岐阜赤十字病院：中島嘉彦
6月 3日 ～ 6月12日	静脈路確保に係る病院実習 朝日大学病院：坪内咲樹
6月 3日 ～ 7月 5日	救急救命士の就業前病院実習 岐阜県総合医療センター：上松大真 岐阜県総合医療センター：松山稜佑 岐阜市民病院：吉田諒太郎 岐阜市民病院：高木章弘 岐北厚生病院：手塚康太 岐北厚生病院：服部翔太
6月 5日	岐阜県MC協議会 令和6年度第1回救急隊員教育部会（オンライン） 部 会 員：根尾惣磨
6月10日 ～ 7月 9日	気管内チューブによる気道確保の実施に係る病院実習 岐阜市民病院：中田智義
6月10日 ～ 7月23日	気管内チューブによる気道確保の実施に係る病院実習 朝日大学病院：福田祐一
6月12日	第56回岐阜県ドクターヘリ症例検討会 開催場所：岐阜大学医学部 発 表 者：渡辺亮
6月17日	令和6年度第2回岐阜県MC協議会（オンライン） 委 員：根尾惣磨

	記 事
6月18日	ぎふ清流ハーフマラソンメディカル委員会 開催場所：岐阜大学医学部 委 員：澤田知孝
6月29日	岐阜県救急医療研究会役員会 委 員：留田隆、根尾惣磨 岐阜県救急医療研究会総会・学術集会 開催場所：岐阜大学医学部
7月 7日	応急手当普及員再講習（計3日間）
7月13日	
7月24日	開催場所：南消防署3階大会議室
7月 8日、9日	第21期処置拡大二行為養成研修 開催場所：岐阜大学医学部 受 講 者：三島喜一郎、加藤浩介、坪内咲樹、鋒山伸久、早矢仕尚孝
7月 8日 ～ 8月 9日	救急救命士の就業前病院実習 岐阜赤十字病院：大坪和樹 朝日大学病院：安井浩人
7月12日 ～ 9月11日	マイナンバーカードを活用した実証事業 実証事業実施隊：本部、中署、南署、北署、瑞穂署、山県署、本巣署
7月18日 ～ 7月20日	第27回日本臨床救急医学会総会・学術集会 開催場所：鹿児島市 カクイックス交流センター
7月22日 ～ 7月30日	ビデオ喉頭鏡による気管挿管病院実習 朝日大学病院：木野村尚也
7月29日 ～ 7月31日	患者等搬送乗務員適任者講習 開催場所：本部6階大会議室
7月30日	岐阜県MC協議会 令和6年度第1回安全管理部会（オンライン） 部 会 員：登みゆき
8月 1日	患者等搬送乗務員定期講習 開催場所：本部6階大会議室
8月 5日、7日	第6期MC救命士講習 開催場所：岐阜県消防学校 受 講 者：小林大介、榊泰浩、川合淳、篠田宗幸、川田康夫、勝村雄介
8月20日 ～ 3月11日	第34期名古屋市救急救命研修所入校 田中大貴
8月26日 ～ 9月24日	気管内チューブによる気道確保の実施に係る病院実習 岐阜県総合医療センター：道脇翔平
8月28日	第19回岐阜市救急技術検証会（台風接近に伴い中止）
8月28日 ～ 3月10日	第67期救急救命東京研修所派遣 長野旭宏、青木翔大、梶村太紀

	記 事
9月 7日	応急手当普及員講習（計3日間）
9月14日	開催場所：南消防署3階大会議室
9月21日	
9月17日	ビデオ喉頭鏡による気管挿管病院実習
～ 9月19日	朝日大学病院：川田康夫
9月25日	救急救命士による薬剤投与修了実習
	岐阜大学医学部：松山稜佑、吉田諒太郎
9月30日	ビデオ喉頭鏡による気管挿管病院実習
～10月 2日	岐阜市民病院：川合淳
10月 1日	救急安心センターぎふ（#7119）事業 岐阜県下一律運用開始
10月 9日	救急救命士による薬剤投与修了実習
	岐阜大学医学部：手塚康太
	救急救命士によるビデオ喉頭鏡修了実習
	岐阜大学医学部：木野村尚也
10月28日	気管内チューブによる気道確保の実施に係る病院実習
～11月29日	岐阜市民病院：森一樹
10月30日	令和6年度第1回岐阜県MC協議会岐阜支部会議
	委 員：根尾惣磨、勝村雄介
11月 7日	岐阜県消防長会救急課長会議
	開催場所：海津市 海津市OCT文化センター
11月13日	令和6年度テロ災害・多数傷病者対応訓練
	開催場所：ホームセンターバロー 北方店
11月13日	救急救命士による薬剤投与修了実習
	岐阜大学医学部：上松大真
	救急救命士によるビデオ喉頭鏡修了実習
	岐阜大学医学部：川合淳
11月21日、22日	第33回全国救急隊員シンポジウム
	開催場所：秋田県秋田市 あきた芸術劇場ミルハス 他2会場
	発 表 者：勝村雄介
12月 7日	第27回日本救急医学会中部地方会総会・学術集会
	開催場所：福井県福井市 A O S S A
12月 9日、10日	第22期処置拡大二行為養成研修
	開催場所：岐阜大学医学部
	受 講 者：中島嘉彦、小酒井大貴、六坊章宏、太田光祐、藤澤柊斗
12月14日	令和6年度MCに係る研修会
	開催場所：瑞穂消防署2階会議室（オンライン）
12月16日	令和6年度 岐阜市自殺対策庁内連携会議
	開催場所：岐阜市役所10-2会議室
	委 員：安江隆晃
12月17日	岐阜県MC協議会 プロトコール検討部会

	記 事
12月19日	令和6年度第1回傷病者の意思に沿った救急現場での心肺蘇生WG グループ員：澤田知孝 救急救命士による薬剤投与の実施に係る修了実習 岐阜大学医学部：服部翔太
12月20日	救急救命士によるビデオ喉頭鏡修了実習 岐阜大学医学部：川田康夫 産業廃棄物処理に関する中間処理場及び管理型最終処分場視察 視察場所：三重県伊賀市（三重中央開発） 視 察 員：杉山欣史
12月27日	令和6年度第3回岐阜県MC協議会 開催場所：岐阜大学医学部 委 員：根尾惣磨